

ＩＥＡ閣僚理事会 議長総括仮訳

１ ２０１５年ＩＥＡ閣僚理事会は、１１月１７日～１８日、パリにおいて、アーネスト・モニーツ米国エネルギー長官の議長により、「クリーンで安定的なエネルギーの将来のためのイノベーション」のテーマの下、会合を開催した。

２ 今年のＩＥＡ閣僚理事会には、２９の加盟国及び欧州連合が参加した。加盟候補国及びパートナー国（ブラジル、チリ、インド、インドネシア、メキシコ、モロッコ、中国、南アフリカ及びタイ）もまた、本会議の成功に不可欠な貢献をした。また、ＩＥＡエネルギービジネス評議会（ＥＢＣ）から３０名のハイレベルの幹部が参加した。

３ 今回の閣僚理事会は、パリ市での悲劇的なテロ攻撃の直後に開催された。この困難な時において、すべての閣僚及びＥＢＣの幹部が犠牲者に哀悼の意を表し、フランス国民への連帯を示した。閣僚理事会に出席したすべての閣僚及びビジネス・リーダーを代表し、モニーツ議長及びファティ・ビロルＩＥＡ事務局長がセゴレーヌ・ロワイヤル・仏エコロジー・持続可能な開発・エネルギー大臣に対し、フランス政府及びフランス国民へのお悔やみの意を表した弔問者芳名録２冊を渡した。

４ 閣僚は、メキシコによる国際エネルギー計画（ＩＥＰ協定）加盟のプロセスを開始する旨の意思を歓迎し、早期にＩＥＡのメンバーになることを促した。閣僚はまた、チリのＩＥＡ加盟に向けた努力に対して敬意を表した。

５ 閣僚は、ファティ・ビロル博士のＩＥＡ新事務局長就任を歓迎し、世界のエネルギー政策に関する権威ある声としてのＩＥＡの役割を強化する彼のビジョンを支持した。閣僚は、ビロル事務局長が新興国との緊密な連携を通じたより包摂的で真にグローバルな機関を築くという取組を歓迎した。閣僚は、主要な新興国との連携強化、エネルギー安全保障に対するコミットメントの強化と拡大及びクリーンで効率的なエネルギーへの一層の焦点という３つの柱の下での事務局長のＩＥＡの近代化という目標を支持した。

６ 閣僚は、エネルギー安全保障をＩＥＡの所掌の基礎として認識し、安定的で、低廉で、効率的なエネルギー供給を推進する必要性に合意した。閣僚はまた、供給源の多様化と、各国の政策や情勢に応じた、エネルギー資源の安全で持続可能な開発、新たな輸送ルート、再生可能エネルギー及び原子力を含む低

炭素技術についても歓迎した。閣僚は、省エネとエネルギーの多様化がエネルギー安全保障を強化する上で役割を担うことを認識した。閣僚はまた、ＩＥＡが緊急時への備えと対応メカニズム、法的手段を通じてエネルギー安全保障において重要な役割を持つことを再確認した。

７ 既存加盟国の石油備蓄義務の遵守を維持し、世界の石油市場の高度化を考慮することの必要性を再確認しつつ、閣僚は、ＩＥＡ事務局に対し、集団的な石油安全保障メカニズムの拡大のために取り得る選択肢について検討し、理事会への中間報告をするとともに２０１７年の閣僚理事会並びに関連する常設作業部会及び委員会で報告することを求めた。

８ 天然ガス市場のグローバル化とともに浮上している新たな課題と機会を検討しつつ、閣僚は、ＩＥＡ事務局に対し、世界の安定的なガス供給を担保する上でのＩＥＡの活動にとっての選択肢をとりまとめ、理事会への中間報告をするとともに、２０１７年の閣僚理事会並びに関連する常設作業部会及び委員会で報告することを求めた。

９ 閣僚は、第２１回国連気候変動枠組条約締約国会議（ＣＯＰ２１）の２週間前に開催された本会合の適時性を認識した。エネルギー部門が世界の温室効果ガス排出量の３分の２を占めるという点を考慮し、閣僚による議論では、エネルギー分野の政策やイノベーションが気候変動にうまく対処する上で果たすべき重要な役割に注目した。閣僚の多くが、炭素排出に係る価格設定に対する自国の取組に言及した。審議の結果、エネルギーと気候変動に関する閣僚声明を採択した。これはＣＯＰ２１へのインプットを意図している。同声明は、エネルギーと気候変動が密接に関係していることを強調し、クリーンなエネルギー経済への世界的な移行を促進する政策とイノベーションを進める必要性を際立たせている。特に、同声明では、世界の排出量のピークを早めるために短期的に各国が適用できる取組として５つの現実的なステップを特定しており、エネルギー効率、再生可能エネルギー、非効率な化石燃料補助金の段階的廃止、最低効率な石炭火力発電の段階的廃止、メタン排出量の削減といった点が強調されている。同声明ではさらに、イノベーション及びクリーンエネルギー技術の普及のみならず、良質な統計の重要性や誓約の見直しと進捗確認の重要性をも指摘している。閣僚は、これらの勧告が示されたエネルギーと気候変動に関する世界エネルギー展望特別レポートを策定したＩＥＡ事務局の価値ある作業に敬意を表した。

10 閣僚は、世界のエネルギー需給に占める主要新興国の割合の増大に留意し、本会議でアソシエーションの始動を歓迎した。閣僚は、幅広いエネルギー政策において、中国及びインドネシア（注：I E A 理事会はその後タイのアソシエーション参加の要請を承認した。）との間でI E Aの関与が強化された新しい時代の幕開けとして、アソシエーションを強調した。タイ及びモロッコがプロセスの参加に対する関心を表明した一方で、ブラジル、インド及び南アフリカは、このイニシアティブの積極的なレビューを継続する。このことは、省エネルギー、エネルギー技術、再生可能エネルギー、電力安全保障、グリッド・インテグレーション及び相互に関心を有する他の課題も同様に重視しつつ、エネルギー安全保障、データ及び統計、エネルギー政策分析に初期に焦点をあてることを含む。将来の発展のため、アソシエーションは、共通の利益を追求する上で互惠を基礎とし、今後、追加的な課題も含め得る。閣僚はまた、ブラジル、チリ、中国、インド、インドネシア、メキシコ、モロッコ、南アフリカ及びタイとの更なる協力を歓迎した。閣僚は、アソシエーションが、今後世界のエネルギー消費の多くの割合を占める主要なエネルギー新興国との間で、I E Aの関与を強化するプロセスにおける最初のステップとなることに留意した。

11 閣僚は、気候変動に関する我々共通の目的を確実に達成し、エネルギー安全保障を強化し、手頃で信頼できるエネルギーへのアクセスをすべての人に確保するため、増大するクリーンエネルギー技術の研究開発の強い必要性を認識した。閣僚は、技術の開発、実施及び普及、コスト削減及び適切な政策を加速させる重要性を認識し、I E Aに対し、技術面のアウトリーチ活動を強化し、加盟国、非加盟国、科学・研究界、産業界及びその他の関係者からの参加の拡大を求めた。閣僚は、「I E A技術協力プログラム（TCP）」として実施協定の再ブランド化を支持し、I E A事務局、理事会並びに関連する常設作業部会及び委員会に対し、技術及びイノベーションに関連した活動を強化することを求めた。

12 閣僚は、特に世界的な経済の回復により上昇するエネルギー需要見通しの観点から、低炭素技術並びに効率的な発電及び送電ネットワークの普及を加速するために持続的でスマートな投資の必要性に注目した。閣僚は、エネルギー市場の設計と独自の規制は、投資を促進し産消双方に正確な価格シグナルを提供するための、効率的、機能的で、透明性があり、市場原理に基づく解決を追求するものであるべきという見解を表明した。閣僚は、本会議において民間部門の参加による恩恵を受け、エネルギー分野における官民パートナーシップの役割を強調した。I E Aエネルギービジネス評議会のメンバーの参加は議論

を充実させた。

13 閣僚はまた、移りゆくエネルギー情勢と世界のエネルギー市場に直接的に影響する地政学についても議論した。地域的なエネルギー需要の増大の変遷やエネルギー源とエネルギー生産の新局面を含む、世界のエネルギー需給における変化は、すべての閣僚にとっての重要な関心事項であった。閣僚はまた、エネルギー安全保障と多様化、エネルギー効率の向上及びエネルギーと持続可能な開発並びに包摂的な成長の間の連関にも注目した。

14 閣僚は、省エネが過去数十年間にわたり、経済成長を支えるためエネルギー資源をより良く活用する国々を助ける「第一の燃料」になったというIEA事務局の分析に留意した。閣僚は、エネルギー関連の排出量と経済成長を切り離すこと（デカップリング）を可能にする点で、省エネという「燃料」が果たす重要な役割を認識した。閣僚はまた、加盟国とパートナー国にわたる健全な経済成長の継続を支援する上での省エネの重要性についても認識した。

15 閣僚は、各国によって設定された政策の枠組み及び再生可能エネルギー電源のコスト競争力の強化に支えられた、近年活況を呈する再生可能エネルギーの普及と継続的な成長に対する強い見通しに励まされた。閣僚は、いくつかの再生可能エネルギーはもはや高い経済的インセンティブを必要としない一方、予見可能で長期的な規制や市場の枠組みをいまだ必要としていることを留意した。閣僚は、風力と太陽光の技術コストの低下及び導入量の増加とともに、電力、熱、輸送部門のより高度な統合を含む、グリッド・インテグレーションの問題やシステムレベルのイノベーションが長期的に重要になっていくことに更に注視した。

16 1974年以来、IEAは、加盟国やそれを超えて、国際的なエネルギー協力の調整とグローバルな課題に対処するための解決策の策定のための重要な機関であり続けている。閣僚は、IEAの長期財政健全化と持続可能性を確実にするための課題について議論した。閣僚は、IEA事務局と加盟国に対し、IEAの財政リスクを緩和する解決策の策定及び分析を求めた。この取組は、これは2016年6月15～16日に予定されている理事会で議論するための中間報告を経て、2016年12月7～8日に予定されている理事会に先だって完結されるべきものである。

17 閣僚は、国際エネルギーフォーラム、石油輸出国機構（OPEC）、国際

再生可能エネルギー機関（IRENA）、クリーンエネルギー大臣会合（CEM）、省エネ協力に関する国際パートナーシップ（IPEEC）、国連万人のための持続可能なエネルギー（SE4ALL）、エネルギー憲章、アジア太平洋経済協力（APEC）、東南アジア諸国連合（ASEAN）、国際連合、G7及びG20を含む、他の国際・地域機関との緊密な協力や対話の重要性について議論した。閣僚は、これら全てのイニシアティブの成功にIEAが分析面で重要な貢献をしていることに敬意を表した。

18 閣僚は、IEAの旗艦出版物であり本会議の直前に発表された、世界エネルギー展望2015年版（WEO2015）の主要なメッセージについて説明を受けた。閣僚はまた、その他のIEAの分析面での出版物による貴重な貢献にも留意した。これらはまた、膨大で広範な世界のエネルギーの課題や、エネルギー市場の理解に良質なエネルギー統計及び分析が果たす重要な役割を示すものである。

19 閣僚は、とりわけ世界レベルで、より安全で、クリーンで、持続可能なエネルギーの将来、人材開発、そして貧困や気候変動への対処のため、更なる深い協力、対話、協調行動の必要性を強調した。この会議に出席したすべての閣僚－IEA加盟国、加盟手続国、パートナー国の代表－は、現在の世界のダイナミクスや発展を前にして、持続可能な発展と包括的な成長を推進するため、より透明で、効率的で、効果的なエネルギー政策の必要性を強調した。

（了）